

夢のつばさ♥プロジェクト 2021年度 事業報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

1. キャンプ・交流会

新型コロナウイルス感染症の流行が終息せず、2019年冬キャンプ以降、宿泊行事が一時中止となり、現在に至っている。2021年度は、従来の夏・冬キャンプは開催実績なしとなった。こうした状況下で、オンラインによる活動が日常的に続けられ、子どもたちや保護者との交流が行われている。

2021年12月に新型コロナウイルス感染症デルタ株の流行がやや収まったため、東北3県へ学生・OBOGスタッフが出向いて、短時間（日帰り）の交流イベント（『2021冬のクリスマス企画』）を行うことが出来た。本企画は、実施によって感染を引き起こすことの無い様に、会場を分け、スタッフの参加者数も絞ったため、盛岡、仙台、郡山で活動した大学生は7名、OBOGは5名であった。

各会場4名ずつのごく少人数のスタッフ配置であったが、子どもたちも大変懐かしそうであった。参加した大学1、2年生スタッフは特に喜びが大きく、子どもたちとの触れ合いを楽しみ、また、活動を支える方々の様々なご支援も体感して、さらに夢のつばさの活動への意欲を高めることができたようであった。新入の大学生スタッフが子どもたちとなじみがないために加わったOBOGも、久しぶりの子どもたちの交流をとっても喜び、2年ぶりの成長に驚いたとの報告があった。

その後、またも新たな変異株が出現し、例年であれば3月末に行う春の交流会の開催も中止となった。夢のつばさプロジェクトに2020年度、21年度に参加した新入の大学生は10数名おり、子どもたちに直接会えないまま2年近くを過ごしたことになるが、このクリスマス企画を実施し、交流活動の様々な準備作業やそのノウハウを上級生から継承できたことは幸いであった。

そのほか、これまでキャンプを実施してきた夏と冬に、Zoomを使って皆でゲームを行う『わくわく！レクリエーション会』を企画実施した。チャットを使うゲーム、使わないゲームを用意し、子どもも学生スタッフも楽しむことが出来た。しかし今年度は、後述の「ただしゃべる会」などが毎月行われているためか、子どもたちの参加が少なかった。オンラインの交流会を有効に実施するためには、さらに工夫が必要だと考えている。保護者懇談会もオンラインで実施した。

<p>オンライン交流会 「わくわく！レクリエーション会」</p>	<p>第1回 2021.8.22 第2回 2022.1.30</p>	<p>オンラインでレクリエーション交流会を実施した。 インターネットを使った交流会のお誘い、Zoom導入の説明などについて、郵送物を通して各家庭へお知らせを行ったうえで開催。 社会人スタッフも参加し、近況報告なども交え、ゲームを楽しんだ。</p>
<p>オンライン 保護者懇談会</p>	<p>2021.11.7</p>	<p>子どもたちの最近の様子など、近況をお話し頂いた。共通して子どもの学習習慣についてのお悩みが大きい。「うるさがるのでなるべく干渉しないようにしている」、「学校と部活で忙しく、家ではご飯とスマホで、親と話をすることが少ない」など、保護者ご自身も忙しいこともあり、少し心配な状況であった。 社会人スタッフ（心理カウンセラー）が、「勉強や生活態度を咎めるのではなく、興味のありそうな話題や、体調を気遣うな</p>

		ど、子どもに寄り添う言葉かけを少しずつ続けるように心がけてはどうか」とアドバイスした。保護者の方にも好評であったので、次も参加を呼び掛けたい。
交流会 2021冬のクリスマス企画	2021.12.11	2年ぶりの対面行事が実施できた。 感染を防ぐため、多人数で集まることを避け、盛岡、仙台、郡山の3会場へ4名ずつのスタッフが出向き、子どもたちにクリスマスプレゼントを手渡して30分程度の対面ののち、解散。 学生・OBOGスタッフはワクチン接種を2回、インフルエンザワクチンも接種して準備した。感染対策の徹底、飲食しないこと、嬉しさからはしゃいでしまうような企画にしないことを心掛けた。数分ではあったが、各会場と東京の学生・社会人スタッフとZoomをつないで、交流することが出来た。 子どもの参加者数：小学生1名、中学生6名、高校生3名。 (学校行事・体調不良等でキャンセル5名)

2. その他の活動

(1) 夢のつばさスタディ

高校受験生、大学・専門学校受験生となった子ども達に、大学生数名がチームを組んで、オンラインによる個人指導で勉強を教える『夢のつばさスタディ』は、夢のつばさの学生、OBOG有志のボランティアで続けられており、毎年、子どもや保護者に好評である。本年度は、中3生5名にZoomを使用して学習面・精神面でのサポートを行った。

大学生・OBOGスタッフからは、「子どもたちと定期的に会えるため、つながりが維持出来て嬉しい・安心する」「学力面や意欲に向上が見られて達成感がある」という感想が得られている。また「子どもとスタッフ2人という固定メンバーでの活動になり、子どもたちの希望に合わせて様々な形で行っているため、誰がどのような活動をいつ行っているか見えにくい」という反省点もあり、定期的な報告会、報告書の提出等を心掛けている。保護者へのフィードバックも行っている。

今回の参加者の中には、以前、「今度中学生になるから、教えてもらえるんだよね」と頼りにしている様子の見られた子どもがあった。子ども自身のクラブ活動などで日常的には実現出来ないこともあり、また教える側の人数も限られているため、高校受験生にしか実施できていないが、この個人指導は夢のつばさの活動の中でもかなり順調に機能しているので、今後、さらに重点を置いて実施することも考慮したい。学生たちは、個人的に無償で行っているため、その負担は大きいのではないかと考えて聞き取りを行ったが、学生代表からは、「教材費なども自己負担はなく、また時間的にもほかの企画などの負担と特に変わることはなく、ボランティアで実施することに違和感はない。」という回答であった。

(2) 夏休み勉強企画

子どもたちの夏休みの時期に合わせて、子ども1人とスタッフ2人で、宿題を一緒に行う企画を実施した。今回は2名のみでの参加で、合計7日間の実施であったが、参加した子どもには、非常に好評であった。

学生スタッフからは、「毎回勉強が終わった後、楽しそうに学生スタッフと話していたのが印象的だった。雑談の時間と課題の時間での切り替えもできていたと思う」、「子どもから、他の子どもとも一緒に

第1号議案：資料2

にやりたい、キャンプでみんなに会いたいと言われた」、「直接顔を見て話せるので、ちょっとした悩みにも応じられるのが良い」、「昨年度実施した、もくもく会での経験を活かし、勉強時間の配分を一緒に考えることが出来た」、「集中して勉強できる環境を提供できた」、「勉強時間前後で様々な話ができ、勉強のみならず、夢のつばさのことなどについても気軽に質問できる場を提供できた」などの感想が述べられていた。

一つ一つの宿題の相談を受ける単発ではなく、今後、希望する子にはもう少し宿題全体を把握して、スケジュール立てや進捗管理の手助けもできるとより良いのではないかという意見も出たので、本格化するならば、企画する学生スタッフが子どもを引き受けるのみならず、メンバー全体を管理して、多くのスタッフに関わってもらうようにするとよいかもしれない。

(3) ただしゃべる会

コロナで対面の活動が出来なくなって2年目となり、日常的な活動はオンラインが中心となっている。本年度は新しい活動として、「気軽に話せる場を提供する。子ども同士話せる場を作る」ことを目的に、『ただしゃべる会』企画を進めてきた。月に1回、希望者全員を対象に、Zoomを使って集っている。6月12日、7月7日、8月7日、9月20日、10月24日、11月7日、12月4日、1月23日、2月23日に実施した。

「すごろくトーク」を用意し、それぞれのコマのお題等をきっかけにするなどして、フリートークで進める。各回とも、子どもが4~5名、スタッフが6~7名集まり、近況や好きなもの・ことを自由に話している。子どもたちが毎回楽しく話すことができている、それぞれの成長を感じることができる企画となっている。

課題点としては、参加する子どもが固定化してきていること、中高生が多くなってきていて、部活や学校行事等で予定が合わず、不参加になる場合がかなりあること、などで、学生スタッフは会の終了後に振り返りを行ったり、会議を行って改善を探っている。

現在のコロナ禍での活動においては、インターネット活用の必要性和有益性はあきらかになってきているため、保護者の方々の中にはインターネットになじみのない方もあること、子どもへの悪影響についての懸念もあるだろうことを心にかけて、具体的で丁寧な説明を加えて、より良い活用となるよう努めている。後述の交換日記、お手紙企画なども用意して、オンライン企画に参加できない子どもたちとの交流も進めている。

(4) お手紙企画、交換日記

保護者の方の中には、ご自身がインターネットをなさらない方、小学生でスマホは早いとお考えの方もいらっしゃる、オンライン企画に参加できない子どももいる。これまでの企画に参加できておらず、学生・OBOGスタッフとも個人的なつながりのない子どもを対象に、手紙を送ってつながろうという企画を行った。1人の子どもに対して、2人のスタッフが手紙を書いて郵送した。お礼の連絡をくださった保護者もあった。今後も折に触れて続ける予定である。

また、子どもたちと学生・OB/OGが数名のグループとなって手紙の交換を行う『交換日記企画』を、グループ替え・内容更新なども行いながら実施し、今年度も7組が参加している。

交換日記開始にあたっては、だれかを傷つけるようなことは書かないこと、根拠のないうわさなどが独り歩きしないよう心を配ること、個人情報を守ることにについてよく認識し、外部の方に見せたり、持ち歩いたりして紛失しないようにすることなどのルールを共有している。交換日記は子どもたちに人気で順調に進んでおり、多くのスタッフと子どもが楽しんで参加している。男子中学生と男子学生・OBの

グループもあり、それなりに続いているという報告を受けている。

(5) 音楽会

2021年8月28日に、Zoomで音楽会を開催した。音楽に関するトークタイム、クイズ、レクリエーションを行ったあと、社会人スタッフの音楽事務所クライス主催の白井様に作成頂いた、『翼をください』という曲の演奏動画を鑑賞した。これは、夢のつばさの学生スタッフの歌やプロの音楽家の方々がそれぞれ自宅などで演奏し撮影した動画を集めて編集したものである。

企画する際には、「キャンプの音楽会でいつも全員で歌う『翼をください』の曲を、夢のつばさの参加者の動画を集めて編集して作りたい」と考え、子ども・学生スタッフに演奏や歌唱の動画提供を呼び掛けたが、ともに参加率が低く、企画段階の想いがなかなか伝わらなかったのが残念である。参加したスタッフからのフィードバックでは、今後も音楽会を継続したいという声が多く、再度、改善を図って新たな形での開催を検討したい。

3. 総括

2021年度も新型コロナウイルス感染症の流行のために、対面のキャンプ活動はできなかったが、スタッフの小さな努力を積み重ねによって、子どもたちとの交流を継続することができた。その原動力となって、10年以上にわたり、変わらずご支援くださる方々や団体に対して、心よりの感謝を申し上げたい。支援者の方々へ御礼と報告を兼ねて送付している夢のつばさ通信は、19, 20, 21号を発行した。お読み下さって、ご感想やエールを送ってくださったり、ご寄付賜る方もあり、感激することも多い。

今年も、夢のつばさに長く参加し、それぞれ大学や専門学校に進学している3名が20歳を迎えた。東京の大学に進学した一人は、本年度学生副代表となって、通常の活動で活躍してきた。また他の、東北在住の人たちも、東京でキャンプ活動がある場合の送迎を担当したり、また、現地で交流会があるときなどに、企画や会場の選定などに関わることを申し出たりしていたが、最近ではコロナの感染拡大のために外出企画がなく、交流の機会が減っている。

夢のつばさOGの数名から「例年、冬キャンプで行っている『20歳お祝いプロジェクト』をオンラインで実施したい」と申し出があり、「子どもたちが20歳になるまで見守るという夢のつばさの約束を守り」、「20歳を迎えて、夢のつばさと関わったことを喜び、これから先も頑張ろうという意欲を喚起する企画をつくりたい」と、これまでのキャンプでの写真などを動画に編集してお祝い会を実施した。常に細やかに子どもたちを思って企画を立て、活動する学生・OBOGスタッフたちを頼もしく思っている。

本年度は『夢のつばさ奨学金』を大学生・専門学校生5名に授与している。日本の社会生活や経済情勢は厳しさを増しており、成人に達してからも、社会に出てからも、さらなる支援が必要となることもあるだろうと思われる。カウンセリングや啓発・スキルアップセミナー等の企画の必要を助言して下さる方たちもある。またこの活動を続けながら、東日本大震災で保護者をなくした子どもたちに加えて、さらに支援したい子どもたちがあることも常にかけてきた。スタッフや支援者の方々とも夢のつばさプロジェクトの今後の在り方・進め方を検討していきたいと考えている。